

このほど水之明神社境内にて大変重要な美術作品の一部が発見された。本殿の奥ご座が祀つてある祠の左右に鎮座する狛犬の台座（現段階で推測）である。かつて、当社が改修工事を行う前までは、ご神体を守る狛犬の下に設置されていたと思われるが、改修工事の際、何らかの理由で台座だけが外され、その脇の雑木林内に長らく放置されていた。一見、普通の台座のように見えるが、裏返しを見てみると、次のような墨書きがされていた。

「明治廿四年八月下浮六郡上灘村河村鹿蔵」

要するに、この台座は（狛犬も含めて）、明治24年8月に下浮六郡上灘村の河村鹿蔵（かわむらしかぞう）が作ったものだと推測される。河村鹿蔵とは、いったい何者なのか。



墨書きされた台座の裏面

**水之明神社で文化財発見か？**  
(文責) 原田 浩明

今回の台座発見は、この狛犬が横山と名乗る前の情報がないという点から、横山の空白期を知る上で大変貴重な発見であった。また、更なる調査次第では、文化財として評価される可能性もある。ただし、現時点では、台座



台座の状態を確認する関係者一同

河村鹿蔵は、郡中で江山焼を創業した横山（まさこ）さん（本名。万延元年（1846年）11月17日伊予郡上灘村（現在の伊予市）に生まれる。代表作は海町茶碗と湊町大師堂の金剛力士像で、何れも伊予市指定文化財に指定されている。横山は、明治20年に砥部町の梅野姓で働いており（当時は河野姓）、明治26年に横家に入るが、その間は空白期で何をしていたのかは不明。

**河村鹿蔵とは**



抽選会の様子

**防犯灯更新 抽選当たる！**  
(文責) 藤岡 健司

※ちなみに、今回発見された台座は、宮司、神社総代、市担当者立会いの下、安全な場所に保管されました。



本殿奥のご神体が祀られている祠

**三秋フェア開催！**  
(文責) 原田 浩明

去る8月14日、手作り交流市場町家特設会場にて、「三秋フェア2021」が開催された。今回2回目となる本イベントは、「みあき野菜倶楽部」



JRTンネルの所にある防犯灯

7月13日、市役所危機管理課主催による、四国電力寄贈の防犯灯新規5カ所、既設2カ所の抽選会が有り、三秋地区には私が参加しました。結果「当たり」となり、7月16日、No.8「防犯灯（三秋JRTンネルの所）」を申請しました。予定では来年1月までに更新となる予定です。

【感想】  
区長代理でしたが、他部落では「この若いしはどこの区長...?」「三秋区長どうぞ...」の市役所の声で私が立つと「お〜」の声。又、当たりを引いた際にも同じような声が聞こえ、チョット天狗でした。今年の運を使い切りませんでしたので、宝くじは今年も買いません。



特設ブース内PR看板

が生産する野菜の対面販売を通じて、三秋地区をより多くの方に知ってもらうことを目的に1日限定で行われた。今回の目玉は、キュウリの詰め放題で、袋いっぱい詰めて帰るお客様で、準備されたキュウリはすべて完売となった。また、他の野菜もほぼ完売し、訪れたお客様から、「三秋応援してますよ」「活動頑張ってください」と、盛況のうちに今年の三秋フェアは幕を閉じた。



特設ブース内

## 読者プレゼントコーナー ~文化財に関するクイズ~

Q.三秋地区内で最も早く伊予市指定文化財に指定されたものは次のうちどれでしょう？

- ①端の左衛門の墓
- ②水之明神社の狛犬
- ③西願寺境内のソテツ

**応募方法**  
応募締切 2021年12月6日(月)必着  
当選発表 本紙第15号にて

※ご応募いただいた皆様の個人情報は事務局にて厳重に管理し、プレゼントの発送以外の目的では使用いたしません。

①クイズの答え ②住所 ③氏名 ④年齢 ⑤電話番号 ⑥本紙の感想などを明記の上、郵便ハガキ・Eメール・公式HPの応募フォーム（下記のQRコードからアクセス）のいずれかにてご応募ください。正解者の中から抽選で1名の方に図書カード500円分をプレゼントいたします。

宛先 〒799-3124 伊予市三秋甲271-2  
地域新聞みあき事務局 宛  
Eメール info.miaki@gmail.com

応募フォームはこちら

## 第13号のクイズの答えと解説

答え ③東京スカイツリー（634m）



解説 山頂にある看板に『63.4m』と記されています。ちなみに、他の建造物の高さはそれぞれ次の通り。  
①京都タワー ... 131m  
②東京タワー ... 333m  
④あべのハルカス ... 300m  
⑤エッフェル塔 ... 300m  
当選者は京都府の山足さんです。おめでとうございます。

## みあき写真館 (撮影・谷本 由香)



【タイトル】 明神山とこのぼり

## みあき図書館 (文責・岡田 有利子)

『日本の花を愛おしむ 令和の四季の楽しみ方』  
田中修 (著) 朝生ゆりこ (絵) 中央論新社

前号の本紙にてクスノキの大本が紹介されていました。今回は、写真ではなくイラストで描かれた、身近な植物の本をご案内します。

ウメ、サクラ、アサガオ、キンモクセイ。日本の花と書かれているように、我々になじみ深い花が登場します。「新春を祝う」から始まり、「春の訪れ」「夏」「秋を魅せる」「冬」へとページをめくるにつれ、日本の四季は実に豊かだと感心させられます。

花の形状や植物の特性、名前の由来、格言や言い伝え、花の名が付けられたヒ

ット曲の話など、多岐にわたるエピソードを知ること、さらに花が身近になるかもしれません。

これまでの地域新聞みあきに登場した植物を振り返りながら、改めて何気ない草花や樹木たちに注目してみませんか。

三秋大池の土手に咲く桜。今回の主役はアサギマダラではなくフジバカマ。バラやナデシコなど、三秋のちょっとした花の名所である坂井タツコさんのお庭の主役たち。明神山のイチヨウのじゅうたん。原中組のツツジの群れ。三秋と言えば思い浮かぶ、きゅうりやハスの花もご覧ください。

## うちの家族を紹介します (文責・原田 夏子)

No.3  
**長谷自動車さんの愛猫「ジジ」くん**  
性別：オス  
年齢：2歳  
PR：たまたま工場の裏にいたボクを「これも何かの縁」と思い拾ってく

れたことがきっかけでこの看板猫に。「ジジ」という名前になったは、魔女の宅急便に出てくる猫と同じ黒猫だから。好物は鯉節とちゅーる。普段は、窓際にあるハンモックで昼寝するなど自由気まま。お客さんが来たら、大好物のちゅーるをもらって皆さんに幸せを運んでます。

## 編集後記

今年もレンコンの収穫体験会を行う予定です。ただ、昨年よりもコロナ感染状況が厳しいようなので、場合によっては、中止になるかも知れませんが、開催に際してはより一層の感染予防対策を徹底したいと思っております。予定では、10~11月の間に行う予定です。それまでには、多くの方がワクチン接種を終えていることと思いますので、今よりは状況が改善されていると期待しています。

**おひせ**  
皆さんのお家に古い写真が眠っていませんか？昔の風景や祭り等、三秋に関する昔の写真がございましたらご連絡ください。また、その他の投稿・情報・写真も随時お待ちしております。★みあきの〇〇★私の絶景 etc...。自薦他薦問いません。お近くの当新聞編集委員もしくは、メールにてご連絡下さい。  
info.miaki@gmail.com

# 学・官・地 共同事業スタート

(文責) 原田 浩明

昨年度、伊予市と愛媛大学社会共創学部との共同事業としてスタートした「ヨソモノ視点からの魅力発見フィールドワーク事業」ですが、3月をもっていったん終了(本紙第12号にて報告)、令和3年度より新たな体制でリニューアルスタート。昨年度の活動を踏まえ、より具体的に、より実践的な三秋の魅力を伝えるアイデアを学生たちの目線(ヨソモノ視点)で出し合い、カタチに残るものになるよう取り組んでいます。今号では、6月に行われた現地フィールドワーク(三秋訪問視察)や学内ミーティング等を通して寄せられた、三秋に対する学生たちの所感を紹介しま



現地フィールドワーク参加者一同

## 3回生 上田 愛子

今回初めて三秋地区に訪問し、住民の方々の心の広さに驚きました。吉岡さん、原田さん、なつちゃんさんを始め、突然来たヨソモノの私たちにここまで親身になって共に考

え、おもてなしをしてくださり、町ののどかさ、静けさがあるものなのだなと感じました。町の中は人音りがほぼ無くて、草木や車の音が町中に響いていました。イベント等を行い、ここに住民が集まると賑やかなる様子を想像すると非常に楽しみです。

## 3回生 君岡 きょう

三秋地区に初めて行って、私は2つ感想を持ちました。まず、1つ目に、郡中港駅から近いことに驚きました。一度、Googleマップで三秋地区を検索したとき山の中に矢印が当たったこと、三秋II車で長時間の移動が必要なおもてなしというイメージが勝手に私の中についてしまったのですが、今日実際に行ってみて距離感の間隔が変わりました。また、体感10分程度の景色がガラリと緑色に変わることにも驚きました。2つ目に、私の予想以上に三秋地区は地域資源がたくさんあることがわかりました。食べ物(農作物)、大量の竹、写真スポットになりそうな場所、坂道ダッシュに最適な素敵な道など、三秋地区に豊富な地域資源が眠っていることがわかりました。その地域資源を「みてみやプロジェクト」メンバーのアイデアで味を引き出すしていきたいと思っています。2点とも実際に行かなければ気づくことができなかったことです。今回のフィールドワークで得た資料を元に、構想を練って参ります。



## 3回生 本間 英路

初めて三秋地区に訪問させていただいたのですが、想像していたよりも民家が多く、人の生活を感じることができました。また、吉岡さんや原田さん夫婦など三秋地区の方々が熱量を持って、三秋をどうにかしたいという気持ちも感じることができ、合意形成もスムーズに行くのではな

## 3回生 吉弘 あゆ

昨年度より、三秋地区に携わらせていただいています。レンコンファームに水が張っている様子、スポーツが実施した広場に緑の草が生い茂っているところ、青々とした空など、昨年秋に見た三秋とはひと味違う風景の広がりを感じました。またフードメニューの開発に関して、実際に三秋地区で収穫できる果物や野菜を教えてください。沢山のヒントをいただきました。原田様よりいただいたアイディアのヒントも、スムーズに作り



住民インタビュー

## 2回生 伊澤 綾夏

私自身、三秋地区と同じくらの規模の地域で育ってきたため、非常に懐かしさを感じました。三秋地区の皆さんが、気さくで、話しやすい方ばかりで、お話をするだけでも楽しかったです。自然が豊かで、空気が澄んでいて、気持ち良かったです。場所は、サイクリストの方が通る道からすぐ近くにあり、大きい道から少し離れたところ、何か1つ魅力を作るだけで、訪れる人の数は増えそうだと感じました。また、特に道路などです

## 2回生 亀山 幹太

初めて三秋を訪れてみて、一番に感じたことは地域の限が切れるタイミングで交換する、パックご飯5食入りの袋、素麺100g5束入りの袋、早茹でパスタ100g4束入りの袋、棒ラーメン2食入りの袋、鍋の素8個入りの袋、パスタソースの素2食入りの袋、カップスープの素2食入りの袋、缶詰2缶、カボチャの素10本入りの箱、コーヒーマイ10本入りの箱、といった具合です。個人的な趣味で川釣りに行った後にキャンプすることも多く、そこで良く使う物をストックし、使った物を補充するといった具合です。参考になるかどうかは判りませんが、皆さんも自分の生活習慣を鑑みて何処に？どの様な物を？どれだけ？ストックするのか考えてみてはどうでしょうか？



レンコンファーム視察

## ハスの花満開に

(文責) 原田 浩明



満開を迎えたハスの花



多くの花が咲くレンコンファーム



学内でのミーティング



ハスの花を愛でる親子

人々の温かさです。三秋地区を理解するために様々な場所を周りましたが、それぞれの場所でも地域の人が親切に説明してくださり、非常に人の温かい場所であると感じました。また、とても自然豊かな場所であり、魅力的な自然風景もたくさんあります。私は県外出身なので、愛媛には私の知らない地域資源がまだまだあると実感しました。今後とも三秋地区活性化のために努力いたしますので、よろしくお祈りいたします。

## 伊予断層のトレンチ調査から

(文責) 白山 貞治



トレンチ調査

伊予断層のトレンチ調査は、平成20年(2008)の1月3月にかけて実施されました。調査場所は、伊予市三秋と市場の2ヶ所です。調査した会社は、四国総合研究所・土木技術部で、伊予断層の活動の情報と変位量、活動の歴史を得ることを目的として実施されました。

トレンチ調査は、過去の活動を詳しく知るために、断層面を横切る方向に細長い溝を掘り、地層を露出させておこなわれる調査のことです。この情報をもとに、将来発生する地震の規模や時期を推定します。



断層断面



断層上から



現場を見させていただきましたが、ずれた断層の位置や、和泉層(黒)に貫入してきたデイサイト安山岩(白)の境目を確認することができました。

三秋地区では、地震に限らず、台風や集中豪雨による災害が考えられます。各所に急傾斜地崩壊危険箇所・土石流危険区域・三秋大池の決壊による浸水予想地域などがあります。各家で防災マップなどを確認し、日ごろより地域の危険度や避難場所を確認しておきましょう。



現況図

## 和尚の小部屋

(文責) 西願寺 玉井 敬信

前回、当寺院での取組みとともに、皆様には普段から無理のない備蓄に対する自助努力をお願い致しました。では、個人として実際はどうしたらいいの?という疑問が湧いてくると思います。そこで今回は、和尚個人のローリングストック事情について話したいと思います。まず、私が考えたのは自身の「生活習慣」です。地方の田舎に住む多くのサラリーマンと同じく、私は松前町にある自宅と寺院の所在する三秋の間を頻りに往来するとともに、寺院外での仕事も自家用車を使用すると言ったのが日常となっていました。つまり、特別な場合を除いて、自家用車の近辺で過ごす時間が必然的に多くなり、寺院内や自宅ではなく、自家用車にストックすることにしました。それでは、何をストックしているのか?答えとして、其々5年保存可能な2リットル水6本入りの箱&各種味付けのアルファ米12食入りの箱。後は、其々賞味期

## 伊予市の観光協会が新しくなります

(文責) 荒井 綾子



伊予市が新しい観光物産協会(仮称)を設立しようとしています。観光が主な産業ではない伊予市がなぜ?という疑問が出てきます。どのような役割を持つのでしょうか?このことについて、9月から全4回に渡り開催されるワークショップで掘り下げていきたいと思います。



荒井 綾子(あらいあやこ) 伊予市地域おこし協力隊

◆執筆プロファイル 福島県生まれ。淑徳大学社会福祉学部卒。横浜で障害福祉に従事。下灘駅に旅をしたことをきっかけに伊予市に移住。2020年5月から、法人伊予市の観光物産協会(仮称)設立に向けて活動中。今年9月から全4回に及びワークショップを開催し、伊予市の魅力を発信し、新しい法人の事業内容を検討する。